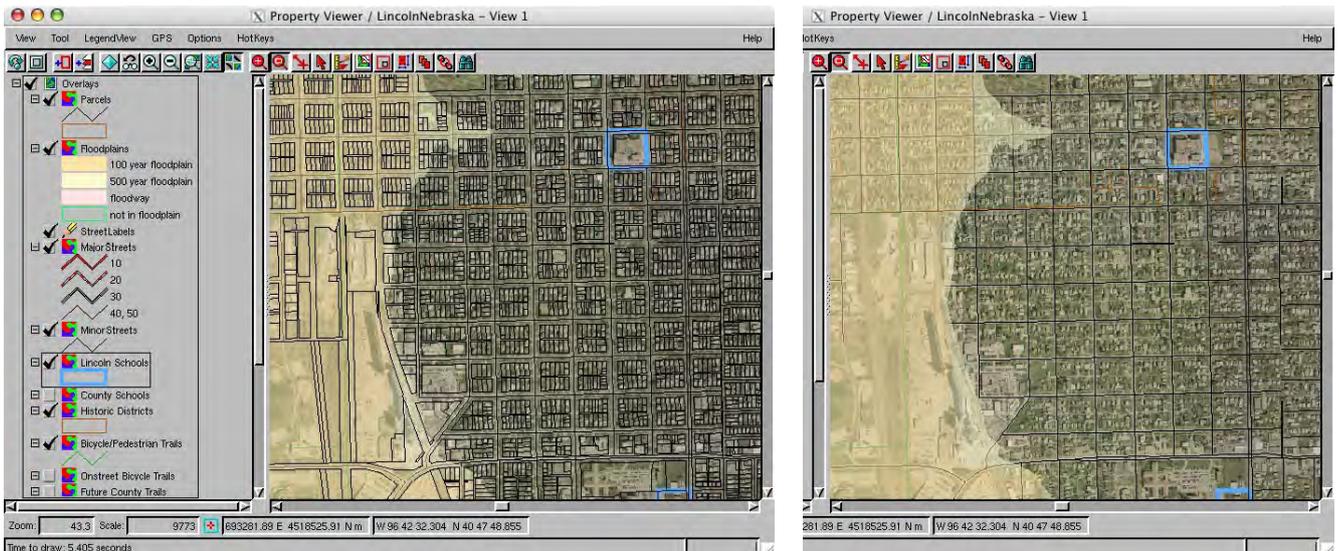


各種図形レイヤのキャッシュ

TNT 製品での地理データの表示速度が今回のバージョンアップでさらに速くなりました。実際、何百ものレイヤが画面やレイアウトで重なっていても、ほぼ一瞬で表示されます。ラスタデータの表示については、姉妹編のテクニカルガイド「空間表示：ラスタレイヤのキャッシュ (Spatial Display: Raster Layer Caching)」で説明しています。同様の機能が、ベクタ、CAD、シェイプ、TIN などの各種図形レイヤについても実装されました。

この例の画面レイアウトは 16 個のレイヤから構成されています。データ量は全部で 4.3GB です。このレイアウトは 5.405 秒で開くことができます (左下の図)。右下の図では 10 万個以上のポリゴンを含む街区レイヤを非表示にしています。街区レイヤのない合成画面の再表示時間は 0.222 秒でした。



図形レイヤでは要素選択と解除に対する素早い応答も必要とされます。個別の要素を選択した時、強調表示されるのが速いのは、選択された要素だけ再描画されているからです。要素の選択解除は強調表示を消すことですが、これもほぼ瞬時に行われます。そのレイヤだけが瞬間的にメモリキャッシュからコンポジットの表示画面に復元されます。

マウスクリックで選択するポリゴンの強調表示は一瞬で行われ、そのポリゴンの選択解除も同様です (左下図)。マウスクリックで他のポリゴンを続けて強調表示できます (右下図)。

